

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

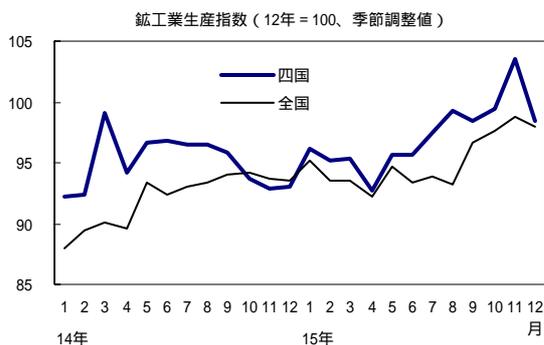
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 11 月）	今回（平成 16 年 2 月）	
鉱工業生産	このところ増加	増加	
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

パルプ・紙は、印刷用紙や衛生用紙などは増加したものの、情報用紙や雑種紙が減少したため、横ばいとなっている。食料品・たばこは、清涼飲料や冷凍調理食品が好調であったことから増加している。電気機械は、全般に高操業が続く中、デジタルカメラやリチウムイオン蓄電池の生産が大きく伸びたことから、4 四半期連続で増加している。化学は、樹脂原料や脱硫用の触媒などが増加したものの、工場の定期修理の影響が出たこともあり、おおむね横ばいとなっている。一般機械は、建設機械が首都圏の排ガス規制対応の需要で堅調に推移し、またプレス用金型や金属工作・加工機械が増加したことから、3 四半期連続で増加している。



(備考) 平成 15 年 12 月の四国は速報値。

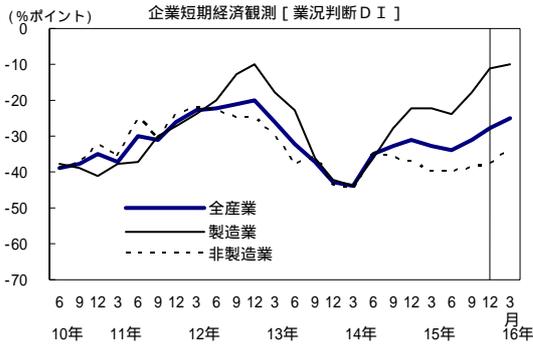
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
パルプ・紙	13.3	0.0	0.0	0.5	0.4
食料品・たばこ	13.3	6.3	2.1	3.8	4.9
電気機械	12.8	7.1	14.4	14.7	152.6
化学	12.7	7.0	0.1	2.6	4.9
一般機械	11.3	17.3	6.8	14.8	18.0
鉱工業	100.0	3.9	2.1	3.2	2.3

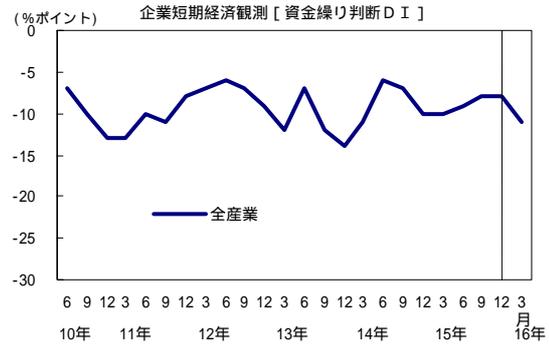
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

2. 10～12 月期は速報値。

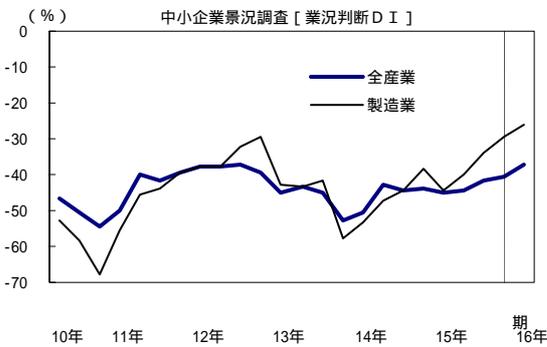
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「現在もトラックへのスピードリミッター取付けを継続しており、コスト上昇を強いられている。また世間では景気は上向きとの報道もあるが、良い業種はわずかで大半は厳しい状況にあり、荷動きも決して良くない(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

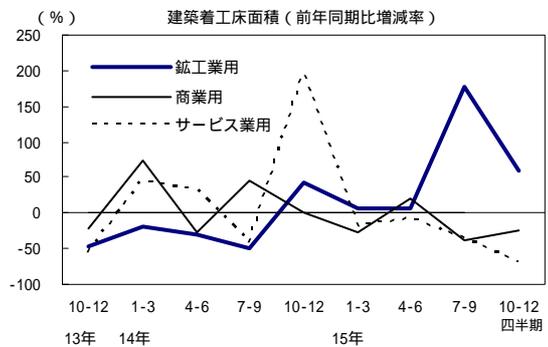
(3) 15年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	14.9	1.3 [1.7]
製造業	22.9	5.3 [1.3]
非製造業	8.8	5.6 [3.6]

(備考) []は前回(9月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

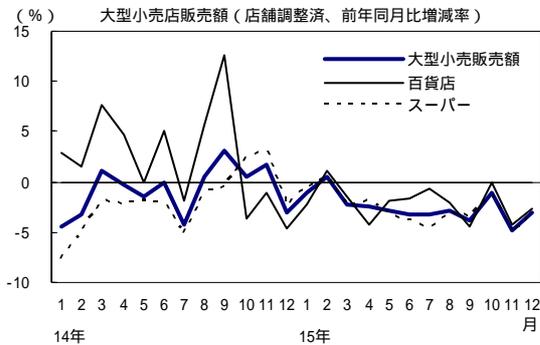
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は催事的好調などで、衣料品や飲食料品に動きがみられたものの、ハンドバッグやアクセサリーなどの身の回り品や家庭用品が低調であった。11月は催事的好調で美術工芸品に動きがあったほか、歳暮ギフトの早期受注も好調であったが、暖冬の影響で冬物衣料が不振であったことに加え、前年のプロ野球優勝セールとの反動が出た。12月は気温が高めで推移したことに加えて、セール前の買い控えがみられたことから、コートなどの重衣料が低調であり、全体では10か月連続で前年を下回って推移している。

スーパーは、気温が平年よりも高かったことから、冬物衣料が不振であったことに加え、主力の飲食料品の季節商品が振るわず、全体でも10か月連続で前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査（1月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「初売りは瞬間的に活況を呈したものの、客の慎重な購入態度に変化がみられず、バーゲンセールでは30%オフには見向きもせず、50%オフになるまで待っている状況である（衣料品専門店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

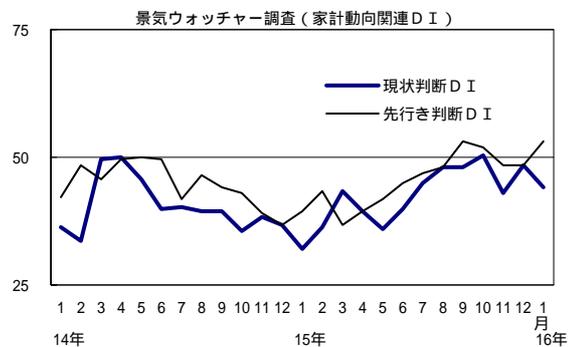
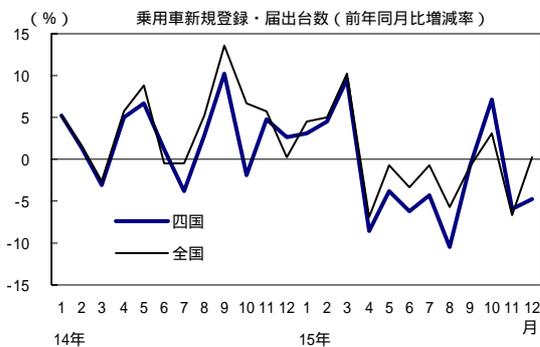


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.0	2.9	3.3	3.0
百貨店	1.1	2.6	2.2	2.4
スーパー	0.9	3.0	3.8	3.2
乗用車	6.5	6.2	4.6	1.6
景気ウォッチャー	37.3	38.4	47.0	47.2

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

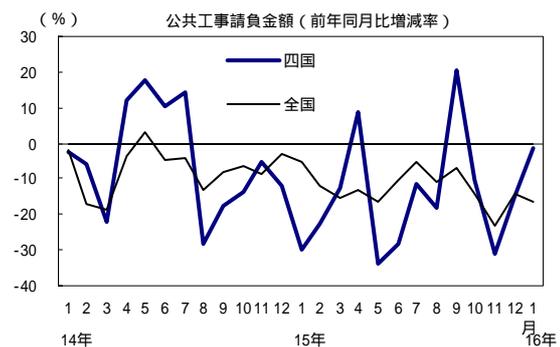
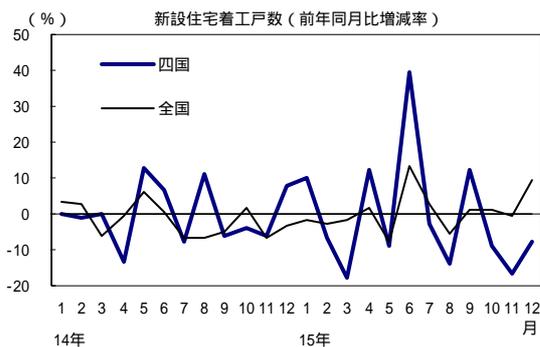
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

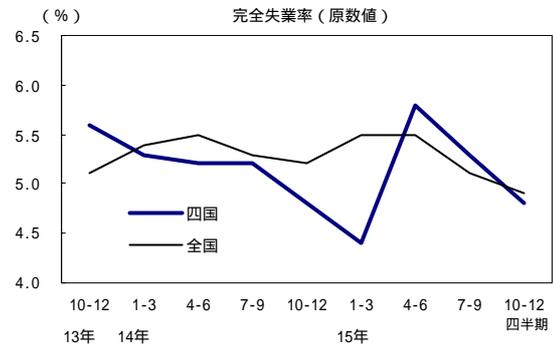
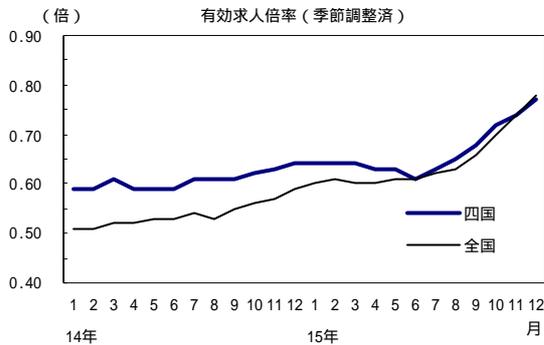


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

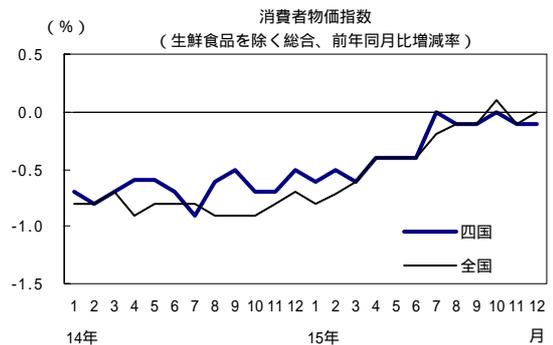
「パートを含む新規求人は4か月連続で前年比増となった。パート求人が2か月連続で前年比2割増となっているが、一般求人は微増にとどまっている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数	121	149	115	89	28
(前年比)	28.8	1.4	20.1	40.3	15.2
負債総額	350	817	487	263	143
(前年比)	58.6	116.5	58.7	3.7	88.3



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・広告出稿の下げ止まりが、ここ2、3か月で顕著になってきた。一部流通業界にも広告費拡大の気配が感じられる(広告代理店)

<先行き>

・春の行楽シーズンを迎える時期でもあり、鳥インフルエンザがまん延しなければ、昨年のSARS(重症急性呼吸器症候群)等で旅行を取りやめた人が今年には旅行に出掛ける(旅行代理店)

